

ニュースから考える

全世界で新型コロナウイルス感染が拡大している中、首都圏で活動自粛が始まりました。小池都知事の「首都封鎖あり得る」発言でようやく危機感を持ったようです。



当初、北海道でコロナの感染が急速に拡大し鈴木知

事の外出自粛要請に素直に従った北海道道民に対し・・・本州の人たちは海の向こうの出来事で自分には関係が無いと感じていたのかも知れません。とはいえ、日本中で消費の停滞、人、モノの交流が停止する事を意味しますので、どの事業者にとっても大きな影響があります。

しかも・・・日本だけではなくアメリカ、EUなど先進国、発展途上国を含めた全世界がその影響

を受ける事になります。今、私たちは過去最大級の異常事態に直面しています。

著名な経済評論家の「100年に1度起こるパンデミック(流行病)からみる経済」というコラムがネットに載っていました。冒頭だけ引用させていただきます。パンデミックは100年ごとに起こっているようで 1720年(ペストが流行)、1820年(コレラの流行)、1918年(スペイン風邪)では人類の3分の1がこの病気に感染し、世界で約5000万人から1億人が死亡したようです。

歴史を考えると・・・WHOを含む世界中の医学・歴史の研究者から2020年頃にパンデミックが起こるとの危機を訴える論文があっても良かったように思います。

いずれにしても・・・100年に一度の試練に私たちは直面しています。融資制度、助成金、税金の減免などあらゆるものを活用し企業を守りましょう・・・。

1分でわかる業務カイゼン

勝者は常に変化・・・

昭和の時代、わが国の家電メーカーは常に新しい電化製品を開発、私たちの生活を豊かにしてくれました。



優秀な製品は世界中に輸出され「ソニー」、「パナソニック」に代表される世界ブランドは私たち日本人にとって誇らしく思われ

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と世界中が日本を注目していました。

しかし、バブルは永遠に続かず・・・いわゆる「コモディティ化」という技術の標準化や発展途上国など

の消費拡大にともなう低価格化に拍車がかかり、新しいニーズに対応できない日本製品はガラパゴスと揶揄され、中国や韓国など新しい勢力に対しその競争力は奪われました。

隆盛を極めていた当時の経営者はこんな時代がくるとは想像もしていなかった事でしょう。新興勢力の台頭、急激な環境の変化は他人事ではないのです。また、いま起こっている100年に一度の突発的な危機もだれも予想する事は出来ませんでした。

チームを守る・・・

今回の騒動の発信地が世界の工場である中国で始まったため物資不足の影響が世界中に広がりました。

た。マスクや消毒液のみならず住宅部品、自動車部品と様々な分野でモノが不足しています。しかも、いつ正常に戻るかわかりません。

そう考えると、トランプ大統領が「アメリカファースト」を推進、雇用対策のため「モノをアメリカで生産するようにごり押し」していましたが、安さだけではなく、国内基盤を強固にするとのリーダーの行動は合理的なものです(たぶん、トランプ氏も…)。

リーダーにとっては**チーム(国・会社)を守る事が最大の使命**です。この困難に際し、如何にして雇用をまもれるか…経営者の能力が試されます。

気に入らないから・・・

先日の税務調査での会話です…調査官曰く「毎年、



税理士を変える企業があるんですよ～」。たしかに経営者も税理士も人間ですので感性が合わない事もあります。

先日も「今の税理士が気に入らない」から当事務所の話を知りたいとの問い合わせがありました。どうやら「自分の言う事を聞いてくれない」事が不満の原因のようです。「この人はいつも人のせいにするんだろうな…」と感じ忙しさを口実にお断りしました。このように、日頃の考え、行動で自分を不利な状況に追込み、敵を増やす経営者も中にはいます。

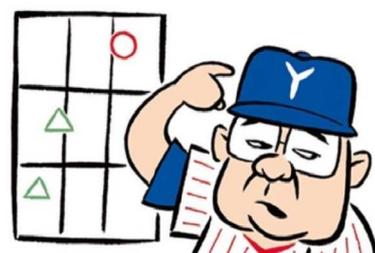
の問い合わせがありました。どうやら「自分の言う事を聞いてくれない」事が不満の原因のようです。「この人はいつも人のせいにするんだろうな…」と感じ忙しさを口実にお断りしました。このように、日頃の考え、行動で自分を不利な状況に追込み、敵を増やす経営者も中にはいます。

理想論に感じるでしょうが…経験上、**お客様や従業員、取引先から信頼されていない経営者**はいずれ経営不振という試練が訪れます。まず、社員が辞めるという事は企業にとって病気の前兆なのかも知れません。

企業経営はスポーツと同じ

環境の変化を敏感に感じ、チームを守り、信頼を勝ち取るとお話ししましたが…経営者業は大変な仕事です。スポーツで考えると理解しやすいと思いますが…監督が選手から反感を受けているのに勝ち続けるチームはないでしょう。また、お金をかけたチームが必ず勝つとは限りません。

お金がなくても、少ない戦力で、最大限のパフォーマンスを発揮…まさに中小企業の経営者は弱小チームの監督そのものです。



中小企業にはエースや4番打者級の優秀な社員はなかなか来ません。先日亡くなった野村監督の代名詞だった「野村再生工場」を見習い、**社員の潜在能力を伸ばす経営**を目指してみませんか？

今月のことば

百の欠点を無くしている暇があるなら、

一つの長所を伸ばした方がいい。

ルノワール

編集後記:

小樽の北一硝子や運河周辺では人がまばらでお店は閉じられ、まさに「シャッターストリート」状態です。今回の騒動で**一次被害**としては飲食・観光などの現金商売が最悪の状態です。**二次被害**として建設業、製造業などで中国からの部品が届かずモノ不足による納入遅れ、消費の低迷による受注減が来るでしょう。**三次被害**として取引先の倒産による貸倒が発生する事が考えられます。これらの被害を最小限におさえ、100年に一度の危機を乗り越えましょう。

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合(TKCが証明するデータを使用しています)

最近1年間: 65.0%

(国税局の発表によると法人の黒字割合は33.2%(28年4月~29年3月)です)